

Ⅹ 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン

別表13 看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標

※実践については、看護職員や教員の指導の下で行う

看護師の 実践能力	構成要素	卒業時の到達目標	
Ⅰ群 ヒューマンケア の基本的な能力	A.対象の理解	1	対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造と機能について理解する
		2	胎生期から死までの生涯各期の成長・発達・加齢の特徴に関する知識をもとに対象者を理解する
		3	対象者を身体的・心理的・社会的・文化的側面から総合的に理解する
	B.実施する看護についての説明責任	4	実施する看護の根拠・目的・方法について対象者の理解度を確認しながら説明する
	C.倫理的な看護実践	5	看護職としての倫理観を持ち、法令を遵守して行動する
		6	対象者の尊厳を守る意識を理解し、価値観、生活習慣、慣習、信条等を尊重した行動をとる
		7	対象者の情報の取扱い及び共有の方法を理解し、適切な行動をとる
		8	対象者の選択権及び自己決定権を尊重し、対象者及び家族の意思決定を支援する
	D.援助的関係の形成	9	対象者と自分の境界を尊重しながら関係を構築する
		10	対人技法を用いて、信頼関係の形成に必要なコミュニケーションをとる
		11	必要な情報を対象者の状況に合わせた方法で提供する
Ⅱ群 根拠に基づき、 看護を計画的 に実践する能力	E.アセスメント	12	健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を系統的に収集する
		13	情報を整理し、分析・解釈・統合し、看護課題の優先順位を判断する
	F.計画	14	根拠に基づき対象者の状況に応じた看護を計画する
		15	看護計画の立案にあたって、対象者を含むチームメンバーと連携・協働する必要性を理解する
	G.実施	16	計画に基づき看護を実施する
		17	対象者の状態に合わせて、安全・安楽・自立／自律に留意しながら看護を実施する
	H.評価	18	実施した看護の結果を評価し、必要な報告を行い記録に残す
		19	評価に基づいて計画の修正をする
Ⅲ群 健康の保持増進、 疾病の予防、 健康の回復に かかわる実践能力	I.健康の保持・増進、疾病の予防	20	生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を説明する
		21	環境が健康に及ぼす影響と予防策について理解する
		22	対象者及び家族に必要な資源を理解し、健康の保持・増進に向けた生活に関する支援を行う
	J.急速に健康状態が変化する対象への看護	23	急速に健康状態が変化する(同手術期や急激な病状の変化、救命救急処置を必要としている等)対象の病態や、治療とその影響について理解する
		24	基本的な救命救急処置の方法を理解し、模擬的に実践する
		25	健康状態の急速な変化に気づき、迅速に報告する
		26	合併症予防のために必要な看護を理解し、回復過程を支援する
		27	日常生活の自立／自律に向けた回復過程を支援する
	K.慢性的な変化にある対象への看護	28	慢性的経過をたどる人の病態や、治療とその影響について説明する
		29	対象者及び家族が健康課題に向き合う過程を支援する
		30	健康課題を持ちながらもその人らしく過ごせるよう、生活の質(QOL)の維持・向上に向けて支援する
		31	急性増悪の予防・早期発見・早期対応に向けて継続的に観察する
	L.終末期にある対象への看護	32	終末期にある対象者の治療と苦痛を理解し、緩和に向けて支援する
		33	終末期にある対象者の意思を尊重し、その人らしく過ごせるよう支援する
		34	終末期にある対象者及び家族を多様な場においてチームで支援することの重要性を理解する

看護師の 実践能力	卒業時の到達目標	
	構成要素	
IV群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	M.看護専門職の役割と責任	35 看護職の業務を法令に基づいて理解するとともに、その役割と機能を説明する
		36 看護チーム内における看護師の役割と責任を理解する
	N.安全なケア環境の確保	37 リスク・マネジメントを含む医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について説明する
		38 感染防止策の目的と根拠を理解し、適切な方法で実施する
		39 関係法規及び各種ガイドラインに従って行動する
	O.保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働	40 保健・医療・福祉チームにおける看護師及び他職種の機能・役割を理解する
		41 対象をとりまく保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解する
		42 対象者を含むチームメンバーと連携・共有・再検討しながら看護を実践する
	P.地域包括ケアシステムにおける看護の役割	43 地域包括ケアシステムの観点から多様な場における看護の機能と役割について理解する
		44 日本における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する
		45 諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する
V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力	Q.継続的な学習	46 看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性和方法を理解する
		47 看護の質の向上に努める必要性を理解する
		48 看護実践に新たな技術やエビデンスに基づいた知見を活用し、批判的吟味をすることの重要性を理解する

X 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン

別表13-2 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

■卒業時の到達レベル

〈演習〉

I:モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる

II:モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

〈実習〉

I:単独で実施できる

II:指導の下で実施できる

III:実施が困難な場合は見学する

※上記到達レベルをふまえ、当校では学内演習を計画している。学内演習で体験できない技術項目については、臨地実習で体験できるよう努める

項目	技術の種類		※学内演習 実施の有無	関連する 科目	卒業時の到達度	
					演習	実習
1.環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	演習	日援Ⅰ	I	I
	2	臥床患者のリネン交換	演習	日援Ⅰ	I	II
2. 食事の援助技術	3	食事介助(嚥下障害のある患者を除く)	演習	日援Ⅱ	I	I
	4	食事指導		成老援Ⅳ	II	II
	5	経管栄養法による流動食の注入	演習	日援Ⅱ	I	II
	6	経管胃チューブの挿入	演習	日援Ⅱ	I	III
3. 排泄援助技術	7	排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)	演習	日援Ⅲ小援Ⅰ	I	II
	8	膀胱留置カテーテルの管理	演習	日援ⅡOSCE	I	III
	9	導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	演習	日援Ⅲ	II	III
	10	浣腸	演習	日援Ⅲ	I	III
	11	摘便	演習	地在Ⅳ	I	III
	12	ストーマ管理		成老援Ⅲ	II	III
4.活動・休息援助 技術	13	車椅子での移送	演習	日援Ⅰ	I	I
	14	歩行・移動介助	演習	日援Ⅰ	I	I
	15	移乗介助	演習	日援Ⅰ	I	II
	16	体位変換・保持	演習	日援Ⅰ	I	I
	17	自動・他動運動の援助		成老援Ⅴ	I	II
	18	ストレッチャー移送	演習	日援Ⅰ	I	II
5. 清潔・衣生活 援助技術	19	足浴・手浴	演習	日援Ⅲ	I	I
	20	整容		日援Ⅲ	I	I
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	演習	日援Ⅲ	I	I
	22	入浴・シャワー浴の介助		日援Ⅲ	I	II
	23	陰部の保清	演習	日援Ⅲ	I	II
	24	清拭	演習	日援Ⅲ	I	II
	25	洗髪	演習	日援Ⅲ	I	II
	26	口腔ケア	演習	日援Ⅲ	I	II
	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	演習	日援ⅢOSCE	I	II
	28	新生児の沐浴・清拭	演習	母援Ⅰ	I	III
6.呼吸・循環を 整える技術	29	体温調整の援助		診補Ⅰ	I	I
	30	酸素吸入療法の実施	演習	診補Ⅰ小援Ⅰ	I	II
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	演習	診補Ⅰ	I	II
	32	口腔内・鼻腔内吸引	演習	診補Ⅰ	II	III
	33	気管内吸引		診補Ⅰ	II	III
	34	体位ドレナージ	演習	診補Ⅰ	I	III

項目	技術の種類	※学内演習 実施の有無	関連する 科目	卒業時の到達度	
				演習	実習
7.創傷管理技術	35 褥瘡予防ケア	演習	成老V	II	II
	36 創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)		OSCE・診断I	II	II
	37 ドレーン類の挿入部の処置		診断I	II	III
8.与薬の技術	38 経口薬(パッカル錠、内服薬、舌下錠)の投与	演習	診断II	II	II
	39 経皮・外用薬の投与		診断II	I	II
	40 坐薬の投与		診断II	II	II
	41 皮下注射		診断II	II	III
	42 筋肉内注射		診断II	II	III
	43 静脈路確保・点滴静脈内注射		診断II	II	III
	44 点滴静脈内注射の管理		OSCE	II	II
	45 薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)		診断II	II	III
	46 輸血の管理		診断II	II	III
9.救命救急処置技術	47 緊急時の応援要請	演習	救急	I	I
	48 一次救命処置	演習	救急	I	I
	49 止血法の実施			I	III
10. 症状・生体機能 管理技術	50 バイタルサインの測定	演習	ヘルスI 母援I	I	I
	51 身体計測	演習	ヘルスI 母援I	I	I
	52 フィジカルアセスメント	演習	ヘルスII	I	II
	53 検体(尿、血液等)の取扱い		診断II小援I 母援I	I	II
	54 簡易血糖測定法	演習	成老援IV	II	II
	55 静脈血採血	演習	診断II	II	III
	56 検査の介助		診断I II小援I	I	II
11. 感染予防技術	57 スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	演習	看基技	I	I
	58 必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン・マスク等)の選択・着脱	演習	看基技	I	I
	59 使用した器具の感染防止の取扱い	演習	看基技	I	II
	60 感染性廃棄物の取扱い	演習	看基技・診断II	I	II
	61 無菌操作	演習	看基技	I	II
	62 針刺し事故の防止・事故後の対応		診断II	I	II
12. 安全管理の技術	63 インシデント・アクシデントが発生時の速やかな報告	演習	医療安全	I	I
	64 患者の誤認防止策の実施		診断II	I	I
	65 安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)		日援I	I	II
	66 放射線の被ばく防止策の実施		治療論	I	I
	67 人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実施			II	III
	68 医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等)の操作・管理		診断I II	II	III
13. 安楽確保の技術	69 安楽な体位の調整		日援I	I	II
	70 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア			I	II
	71 精神的安寧を保つためのケア			I	II